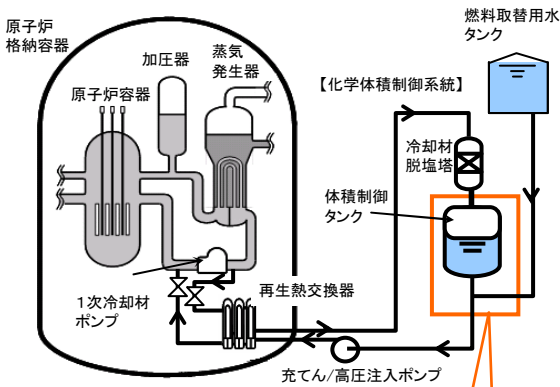


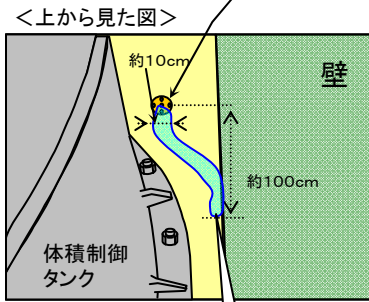
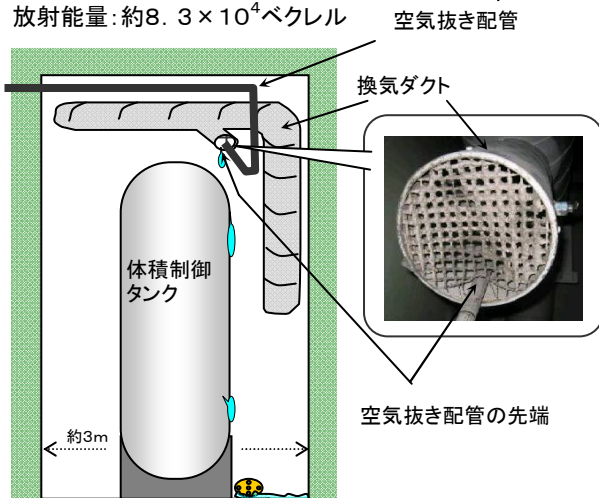
発生箇所



発生箇所 原子炉補助建屋  
体積制御タンク室  
(EL約17m)

体積制御タンク室内の状況

漏えい水量: 約2.5リットル  
(水たまりと目皿に流入した量の合計)  
放射エネルギー: 約 $8.3 \times 10^4$ ベクレル



水たまり: 約0.5リットル

【体積制御タンクの仕様】

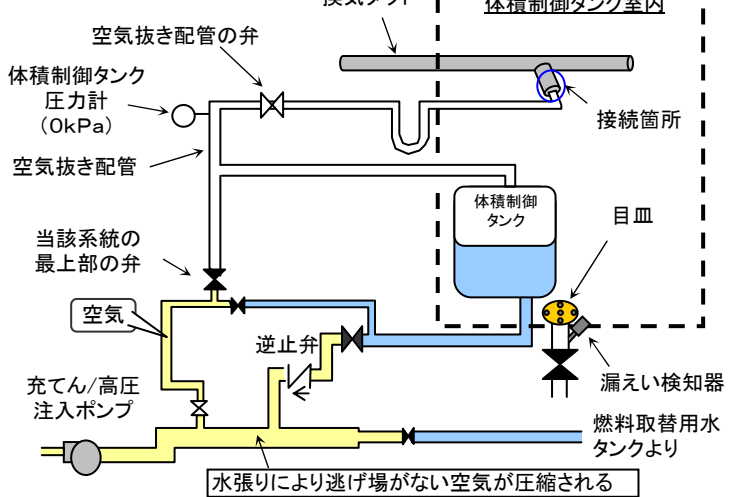
容量: 約 $8.5 \text{ m}^3$  大きさ: 高さ約3.4m × 内径約2.2m

漏えいのメカニズム

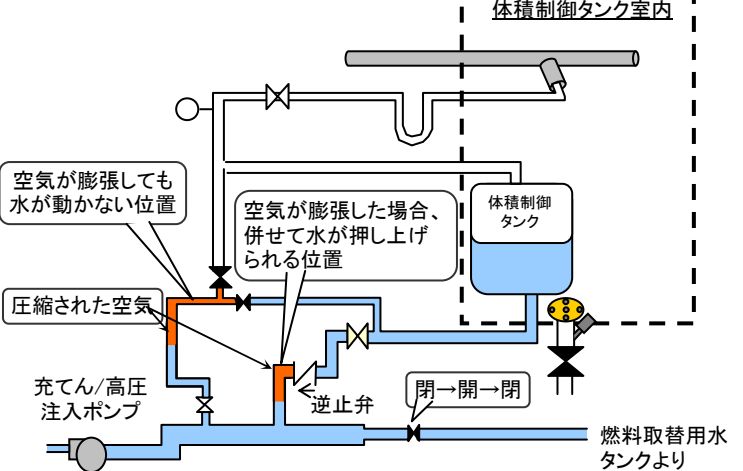
【凡例】

■: 1次冷却材 ■: 圧縮された空気 ●: 気泡(膨張した空気) □: 空気

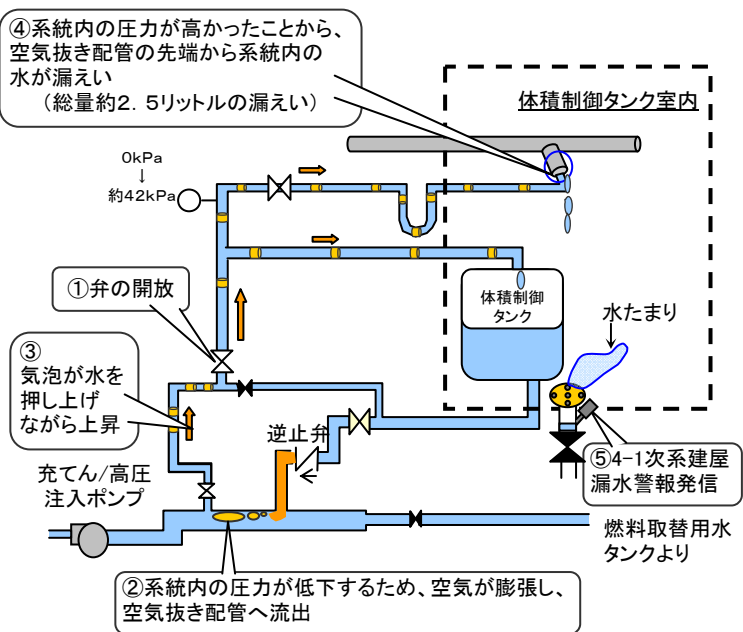
【水張り前の系統状況】



【水張り後の系統状況】



【弁開放時の系統状況】



④ 系統内の圧力が高かったことから、  
空気抜き配管の先端から系統内の  
水が漏えい  
(総量約2.5リットルの漏えい)

0kPa  
約42kPa

① 弁の開放

③ 気泡が水を  
押し上げ  
ながら上昇

② 系統内の圧力が低下するため、  
空気が膨張し、  
空気抜き配管へ流出

⑤ 4-1次系建屋  
漏水警報発信